

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
広島工業大学専門学校	昭和59年1月14日	玉野 和保	〒733-8533 広島県広島市西区福島町2-1-1 (電話)082-295-5111				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人鶴学園	昭和32年11月27日	鶴 衛	〒731-5193 広島県広島市佐伯区三宅2-1-1 (電話)082-921-3121				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	ITスペシャリスト学科	平成22年文部科学省 告示第31号	-			
学科の目的	IT知識・技術の基礎・基本を学び、システム開発やプログラミング能力を身に付ける。将来システムエンジニアとして、プロジェクトに参画できる人材を育成する。						
認定年月日	平成26年3月31日						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時間又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3	昼間	2,944	1,888	0	1,408	0	0
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	29人	0人	5人	5人	10人		
学期制度	■前期:4月1日~9月30日 ■後期:10月1日~翌年3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験・課題・小テストや、授業態度、また出席状況等を総合的に判定し、科目担当教員が評価。			
長期休み	■学年始:4月5日 ■夏季:7月22日~8月31日 ■冬季:12月23日~翌年1月7日 ■学年末:3月18日~4月3日		卒業・進級条件	卒業条件は、学科の定める卒業認定単位数を満たしていること。進級条件は、出席率80%以上、必須科目の単位の取得を原則とし、学科判定会議、学校全体の認定会議で審議。			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 出席率不良(80%未満)学生について、個別の状況把握に努め早期対応を行う。長期欠席者に対しては学科長、校長等が本人に対して保護者を変えて生活指導・進路指導を行う。		課外活動	■課外活動の種類 学生会、体育祭実行委員会、専門祭実行委員会、地域ボランティア清掃、広島市グリーンパートナー、みちのく未来基金募金活動等。 ■サークル活動: 有			
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) ㈱アドバンステクノロジー、シー・ディー・エル㈱、㈱発研セイコー、㈱リマック、フォーザウィン㈱、広島県中小企業共済協 ■就職指導内容 学生向け就職ガイダンス 生き方講座SPI・面接指導 過去入社試験報告書情報提供 等 ■卒業者数 11 人 ■就職希望者数 10 人 ■就職者数 10 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 90.9 % ■その他 -自己開拓1名 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) 資格・検定名 種別 受験者数 合格者数 情報処理技術者試験 ③ 11人 3人 IT/パスポート ③ 11人 5人 コミュニケーション検定 ③ 11人 10人 EXCEL表計算技能認定試験2級 ③ 11人 6人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			
中途退学の現状	■中途退学者 1 名 ■中退率 3.3 % 平成29年4月1日時点において、在学者30名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者29名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更(経済的理由) ■中退防止・中退者支援のための取組 主にチューターが相談窓口となり、学科長、校長等が本人に対して保護者を変えて進路指導を行い、中退防止に努めている。						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 広島工業大学専門学校同窓会奨学金(給付型・年額6万円) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)						
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.hitp.ac.jp/">http://www.hitp.ac.jp/</a>						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」としては、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱わず)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

日進月歩で進化するIT業界において、即戦力となる人材を育成するために企業等と連携し、システムエンジニアやプログラマに求められる知識・技術をカリキュラムおよび授業内容に反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業・業界団体等と連携し、各課程及び学科における技術者育成のための実践的な職業教育の充実と、教育の質の保証・向上及び教員の資質・指導力向上等を図ることを目的に、広島工業大学専門学校学則第50条により産学連携協議会を設置し、その中に、教育課程編成委員会を置く。当該委員会では、以下の事項を審議し、審議結果は教育部長及び各学科長が中心になって教育課程を見直す。

- ①教育課程の編成及び実施
- ②教育計画に関する事項
- ③教材の開発等

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

学校関係者委員

平成30年3月31日現在

名 前	役職・所属	職責等
玉 野 和 保	校長	教育課程編成委員会責任者
鶴 登美子	副校長	委員
吉 本 恒 雄	教育部長	委員
山 下 一 彦	キャリアサポートセンター長	委員
須 山 達 雄	情報系学科長	委員
小笠原 和 教	情報系教員	委員
中 田 智	情報系教員	委員

企業関係者委員

平成30年3月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
高 羽 威	一般社団法人広島県情報産業協会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
中 元 正 彦	株式会社 ECS	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
渡 部 孝	エム・ディー・エス 株式会社	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
田 淵 信 夫	株式会社 リマック	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
谷 真 弘	株式会社 フォックス・リレーション	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 6月、翌年2月

(開催日時(実績))

第1回 平成29年6月 5日 15:00～17:00

第2回 平成30年2月20日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

「クラウド」、「IoT」、「AI」といった新しい技術が広まりつつあり、これらのあたらしい技術に対応できる人材が育成できる新カリキュラムを検討平成30年度より、新カリキュラムに移行

委員会等の意見	学科の対応
・セキュリティやIoTなど、さらに業界で必要とされる知識・技術についてカリキュラムへの導入の検討が要る。	・情報系教員研修にて「機械学習の基礎」を実施した。 ・平成30年度から実施する新カリキュラムを再度見直し、改訂する。
・企業連携授業での指導者と学生の接点を増やす。	・企業連携授業の関連授業を企業講師にお願いすることで接点を増やす。
・ICTを活用した新しい教育方式も必要と思われる。	・ICT機器を導入した教室を準備。授業での利用を実施する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ITに関する実践的な技術が必要とされる中で、システム開発等に関わる技術やスキルを学生に身に付けさせるため、専門性に特化したシステム開発企業と連携し、当該企業の技術者を講師とする実践的な授業を展開することとする。また、同時に実習における学習成果等に対して評価を行う体制を学校と連携して取ることが可能な企業であることとしている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

システム開発に関する企画・開発力を強化するため、ビジネスモデルの企画、「Ruby」「Salesforce」の開発基盤を活用したシステム開発を実施した。企業からの提案課題について、グループで作成し、成果物の発表を企業講師によって評価して頂く。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ネットワーク応用	ネットワーク基礎で学んだ知識を生かし、インターネットの活用方法学ぶ。	株式会社リマック
システム開発実践	クラウド型システム開発ツールである「Salesforce」を用いて、システムの企画から開発までの演習を行う	株式会社ECS
Rubyプログラミング基礎	あらかじめ提供されるサーバープログラムとクライアントプログラムを改良し、Rubyを活用した簡易チャットアプリケーションの作成を行う。	株式会社フォックス・リレーション

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にしていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員が、当学科における急速に変化する経済社会のイノベーションに対応できるよう、専門的な知識や技術・技能を高め、また、学生に対する指導力等の向上を図るため、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会での審議を通じて示された意見や情報等を十分に把握した上で以下の研修等を計画・実施し、それに参加することで教育活動の充実に努めることを基本方針とする。教員の資質・指導力向上等については、「広島工業大学専門学校教員研修に関する内規」に基づき、専門能力向上および指導力向上を図るための研修を行うこととしている。

- ① 企業が開催する研修会
- ② 協会主催学術講演会・講習会・研修会
- ③ 業界団体主催の研修会

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

対象	研修名称	主催	研修期間	研修内容
教員	機械学習の概要及び実習	広島工業大学 専門学校	平成29年12月26日	<p>【研修目的・概要】 近年よく聞かれる「AI」の基礎である「機械学習」について、概要の講義およびプログラム言語「Python」を使って実習した。</p> <p>【講師】 NVDA日本語チーム 西本 卓也</p> <p>【対象科目】 組込みシステム</p>

## ②指導力の修得・向上のための研修等

対象	研修名称	主催	研修期間	研修内容
教員	就活におけるSPIの位置づけと指導方法について	広島工業大学 専門学校	平成29年4月20日	【研修目的・概要】 近年の就職活動において、必須となっているSPI試験の位置づけおよびその指導方法について指導力の向上を図る為、研修を実施した。 【講師】 人材開発マネジメント(株) 三木 知之 【対象科目】 生き方講座、学生指導
教員	キャリアカウンセリングに関する研修	広島工業大学 専門学校	平成29年6月15日	【研修目的・概要】 キャリアカウンセリングの観点から、今どきの就活と若者を知る講演を受け指導力の向上を図った。 【講師】 特定非営利活動法人キャリアプロジェクト広島 副代表理事 竹本 寛美 【対象科目】 生き方講座、学生指導
部長 学科長	コミュニケーションが苦手な学生への支援～合理的配慮が学校を変える	広島県専修学校 各種学校 管理職・教員 研修	平成30年2月23日	【研修目的・概要】 コミュニケーションが苦手な学生が増える中、どのような配慮が必要であるか。また、話す力、聞く力とはどういう事か。研修を受け指導力向上を図る。 【講師】 竹内発達支援Co.代表 竹内 吉和 氏 【対象科目】 生き方講座、学生指導
教員	情報セキュリティ研修	広島工業大学 専門学校	平成30年2月22日	【研修目的・概要】 教職員を対象に学園の情報セキュリティポリシーについて学び、組織体制づくりについて指導を受けた。 【講師】 株式会社ネットスクエア 代表取締役 村上 賢二 【対象科目】 全科目

## (3)研修等の計画

### ①専攻分野における実務に関する研修等

対象	研修名称	主催	研修時期	研修目的・概要
教員	画像認識ワークショップ	株式会社アフレル	平成30年6月	【研修目的・概要】 カメラで見た画像をソフトウェアで制御し、ロボットを動かすまでを体験する。これが必要とされる「IoT」関連の授業で、画像認識、制御の学習の可能性を検討する。 【講師】 株式会社アフレル 【対象科目】 組み込みシステム
教員	アクティブラーニング・産学連携教育におけるPM入門	一般社団法人 全国専門学校 情報教育協会	平成30年6月	【研修目的・概要】 (1) 当事者としての“共通言語”としてのプロジェクトマネジメント知識を知る。 (2) 計画作業の一部を体験する (WBS、リスク) 【対象科目】 システム開発実践
教員	HiBiS部会への参加	HiBiS	平成30年5月以降	【研修目的・概要】 HiBiSが主催する各部会へ参加し、企業と連携し専門知識を深める。 ① インターネットセキュリティ部会 ② AI・IoT研究部会 ③ ビジネスモデル研究部会 【対象科目】 セキュリティ、ネットワーク応用、組み込みシステム

## ②指導力の修得・向上のための研修等

### ・学内における中堅技術者育成の研修

対象	研修名称	主催	研修時期	研修目的・概要
教員	コミュニケーションが苦手な学生への支援～合理的配慮が学校を変える(仮)	広島工業大学 専門学校	平成30年10月	【研修目的・概要】近年、コミュニケーションが苦手な学生が増える中、どのような配慮が必要であるか。また、話す力、聞く力とはどういう事なのか。研修を受け学生対応の指導力向上を図る。 【講師】 竹内発達支援Co.代表 竹内 吉和 氏 【対象科目】生き方講座、学生指導

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

企業・業界団体・学校関係者・卒業生等の委員で構成される学校関係者評価委員会を構成し、自己評価報告書を基に教育目標に沿った人材育成や学校運営等の教育活動を評価することで、各課程及び学科における教育への取り組みの改善等を促進し、教育の質の保証・向上並びに教員の資質・指導力向上等を図る。

当該委員会では以下の事項について評価・助言を求める。

- ①自己評価の内容
- ②自己評価の結果に基づく今後の改善方向
- ③学校運営に向けた取り組み
- ④重点的教育の取り組み内容

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価結果ならびに改善事項は、教職員全員で共有するとともに、各課程及び学科における具体的対応の検討結果を教育課程編成委員会に反映させることで、次年度の教育課程のその他学校運営の改善に活用し、技術者育成のための実践的な職業教育の充実と、教育の質の保証・向上を図る。

学校関係者評価の意見等	活用状況
各学科において企業連携授業等を通じて先進的教育への取組が行われている。PBLは実務的な側面からも効果があると期待される。	ITスペシャリスト学科においては、平成30年度よりカリキュラムを改定し、基本情報技術者試験等の国家資格の取得率向上とシステム開発やセキュリティなどSEとして必要な専門科目において企業連携授業の充実ならびにPBLへの取組を図り、実践力を備えた人材育成に取り組んでいる。
各学科において企業連携授業やインターンシップの取組は、実践力の観点からも継続実施することが期待される。また即戦力からかけ離れたものにならないような教育が望まれる。	ITスペシャリスト学科においては、企業連携授業として、Salesforceを活用したシステム開発やSalesforceを活用したシステム開発など実務に沿った実践的な連携授業を実施している。また、インターンシップへの取組も強化し、次年度は全員参加が出来る体制を検討している。
教育環境は、校舎、施設設備等の充実が図られている。ICT教育への取組も評価できる。継続的な環境整備が望まれる	平成30年度に無線LAN環境の整備、電子黒板の導入を図り、ICTを活用したアクティブラーニング教育に向けた取組を行う。既に先行投入した機材により模擬授業の展開を図っている。今後は、ICTに係る研修会を開催しICT教育への取組を強化する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

学校関係者委員

平成30年3月31日現在

名前	役職・所属	職責等
玉野和保	校長	学校関係者評価委員会委員長
鶴登美子	副校長	委員
吉本恒雄	教育部長	委員

企業関係者委員

平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
国貞和彦	学校法人広陵学園 広陵高等学校	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	高校
高羽威	一般社団法人 広島県情報産業協会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界団体
木谷幸江	公益財団法人 日本照明家協会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界団体
山本博	テンパール工業株式会社	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	企業
宮内秀実	河井建設工業株式会社	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	企業 地域
大畠晋也	広島工業大学専門学校同窓会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 毎年7月末

URL: <http://www.hitp.ac.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育活動及び学校運営の状況とそれらの自己評価報告書を、学校関係者評価委員会ならびに教育課程編成委員会の企業・関係業界・学術機関の委員に配布・公開し意見を求めることで、理解と助言を求め、もって教育の質保証・向上を図ることを基本方針としている。併せて、関係事項をホームページだけでなく、学生募集関係文書、採用案内関係文書等で広く公開し、積極的な情報提供を行っている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	国際連携の状況
(11) その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

職業実践専門課程に関する情報は、各種メディアおよび学校行事等を通じて提供しています。

URL: <a href="http://www.hitp.ac.jp/">http://www.hitp.ac.jp/</a>	随時更新(職業実践専門課程認定に伴う更新 7月、12月)
学習プレゼン大会(学校行事)の開催	2月(職業実践連携企業、内定先企業、高等学校、保護者、新入学生等に広く案内)
学校案内パンフレット	4月以降配布(入学希望者向け)
就職案内パンフレット	3月以降送付(求人企業向け)

授業科目等の概要

(工業専門課程ITスペシャリスト学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生き方講座Ⅰ	仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。	1前	32	1			○	○		○		
○			生き方講座Ⅱ	仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。	1後	32	1			○	○		○		
○			英語Ⅰ	短い読解文を読み文法的な基礎力、語彙力を身につける。また、シャドーイングによりプロソディを改善し、リスニングスキルを向上させるとともに会話表現を学ぶ。	1前	32	2	○			○			○	
○			コンピュータシステム	ハードウェア、ソフトウェア、コンピュータシステムに関する知識を学ぶ	1前	64	4	○			○			○	
○			アルゴリズム演習	基本的な命令の組み立て方を理解し、データ検索や並べ替えなどの代表的なアルゴリズムを学習する	1前	64	4	○			○			○	
○			データベース基礎	関係データベースを中心に、E-Rモデル、正規化、関係演算、トランザクション処理、障害回復方法について学ぶ。	1前	32	2	○			○			○	
○			システム設計基礎	システム開発技法に関する基本計画、外部設計、内部設計、プログラム設計、運用・保守の作業手順をドキュメント化し、簡単なシステムを作成しながら理解する。	1前	32	2	○			○			○	
○			ネットワーク基礎	OSI参照モデルを基に、ネットワークを構成する機器の働き、各種プロトコルを学ぶとともに、セキュリティ対策についても学ぶ。	1前	64	4	○			○			○	
○			情報化と経営	ストラテジ分野である、情報システム戦略、経営戦略、企業と法務を学ぶ	1前	64	4	○			○			○	
○			Webデザイン基礎Ⅰ	Webページを作成するための、Webデザイン、HTML、CSSの基礎知識を学び、Webサイト制作の実践を行う	1前	64	3	△			○	○		○	
○			ドキュメント技法	ビジネス文章の作成について、基本ワープロソフトを活用し、作成方法を学ぶ。	1前	32	1				○	○		○	

○		表計算応用	さまざまなビジネスシーンで活用できる実践的な表計算ソフトの使い方を学ぶ。	1 前	32	1			○	○			○
○		文章技術	明快で論理的な「レポート」「実習報告書」等の作成能力を育成すると共に、論理的な思考を養う。	1 後	32	2	○		○				○
○		Webデザイン基礎Ⅱ	Webページを作成するための、Webデザイン、HTML、CSSの基礎知識を学び、Webサイト制作の実践を行う	1 後	64	3	△		○	○		○	
○		アプリケーションプログラミング	プレゼンテーションとゲームのシナリオ作成、スクリプト言語の学習を行い、1つのゲーム作品を完成させる。	1 後	64	3	△		○	○			○
○		ネットワーク応用	インターネットの活用ができるように、仕組みや接続方法、Webブラウザ、メールクライアントの設定、セキュリティ、サービスの利用と法律を学ぶ。	1 後	64	3	△		○	○		○	○
○		データベース応用	幾つかのRDBMSを使い、SELECT文などのSQLの使い方や、トランザクション処理について学ぶ。	1 後	64	3	△		○	○		○	
○		システム設計応用	システム開発についての知識の取得と、各システム開発の工程で実施すべき事柄を習得する。	1 後	32	2	○		○			○	
○		.netプログラミング	Visual Basicを用いたプログラミング実習を通じて、論理的思考能力の育成と基本的なアルゴリズムの習得をする。	1 後	96	4	△		○	○		○	
○		プレゼンテーションB	PowerPointを用いた効果的なプレゼンテーション資料の作成方法を学び、かつ作成した資料を用い説得力のあるプレゼンテーションの実技を行う。	1 後	32	1			○	○		○	
○		コミュニケーションB	日常生活およびビジネスシーンで必要とされるコミュニケーションに関する基本的な知識を学ぶ。	1 後	32	2	○		○				○
○		情報処理演習Ⅰ	情報処理技術者試験に向けた対策演習を行う。	1 後	32	2	○		○			○	
	○	インターンシップ	IT企業と連携し、SE業務知識やクラウド技術など、ITエンジニアとして必要とされる知識・技術をIT企業の指導者のもとに作業しながら学ぶ。	1 後	64	2			○		○		○
	○	特別講義Ⅰ	既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。	1 前	32	2	○		○			○	
	○	特別講義Ⅱ	既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。	1 後	32	2	○		○			○	

○		生き方講座Ⅲ	仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。	2前	32	1			○	○	○		
○		生き方講座Ⅳ	仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。	2後	32	1			○	○	○		
○		ソフトウェア開発知識Ⅰ	基本情報処理技術者に求められる、基本知識を身に付け、基本情報処理試験の受験を目指す。	2前	64	4	○		○	○			
○		ソフトウェア開発知識Ⅱ	応用情報処理技術者に求められる、応用的知識を身に付け、応用情報処理試験の受験を目指す。	2後	64	4	○		○	○			
○		セキュリティ	セキュリティの基礎知識、ウィルス対策、認証に関する知識、サーバのセキュリティについて学ぶ	2前	64	4	○		○	○			
○	○	データベースアプリケーションⅠ	データベース管理システム AccessのVBAを使ったプログラミングを通して、SQLを使ったデータベースアプリケーションの作成方法を学ぶ。モデルシステムの開発も演習する。	2前	64	3	△		○	○		○	
○	○	データベースアプリケーションⅡ	表計算ソフトExcelのデータベースを活用した仕事に役立つデータベースアプリケーションの作成方法について学ぶ。	2後	64	3	△		○	○		○	
○		オブジェクト指向設計	オブジェクト指向開発でのプログラム設計ができるよう、UMLを理解し、簡単なシステムを記述できるようにする	2前	32	2	○		○	○			
○		Webデザイン応用Ⅰ	Webデザインにおける基礎理論を実践し、より高度な専門的技術を習得する。Webデザインの企画から運用までの専門的知識を学び、Webサイト制作の実践を行う。	2前	64	3	△		○	○		○	
○		Webデザイン応用Ⅱ	Webデザインにおける基礎理論を実践し、より高度な専門的技術を習得する。Webデザインの企画から運用までの専門的知識を学び、Webサイト制作の実践を行う。	2後	64	3	△		○	○		○	
○		オブジェクトプログラミングⅠ	Javaの命令と文法およびオブジェクト指向を理解し、簡単なプログラムを作成できる力を養う。	2前	96	4	△		○	○		○	
○		オブジェクトプログラミングⅡ	オブジェクト指向プログラミングを理解し、Javaを用いてGUIを利用した簡単なソフトウェアを作成できる技術を身につける。	2後	96	4	△		○	○		○	
○		Linux基礎	Linuxの仕組みや操作コマンドおよびシェルスクリプトの基礎を学ぶ。	2前	32	1			○	○		○	
○	○	Linux応用	Linuxコマンドとシェルスクリプトプログラミングを学ぶ。Linux実機を使い、運用や管理の方法も学ぶ。	2後	64	3	△		○	○		○	

○		サーバー構築	小規模ネットワークでのサーバ運用・管理が行えるように、LinuxサーバとWindows2008サーバ双方の、導入・設定・運用・管理を、実機による演習で学ぶ。	2後	64	3	△		○	○	○			
○		システムデザインⅠ	人間の行動を理解し、ユーザが操作しやすく、かつミスの起こりにくいインタフェース設計技術を身につける。	2前	32	2	○		○	○				
○		システムデザインⅡ	JavaのGUI機能を利用した対話型インタフェース作成技術、プログラミング手法を学ぶ。	2後	32	2	○		○	○				
○		情報処理演習Ⅱ	情報処理技術者試験に向けた対策演習を行う。	2前	32	2	○		○	○				
○		情報処理演習Ⅲ	情報処理技術者試験に向けた対策演習を行う。	2後	32	2	○		○	○				
	○	特別講義Ⅲ	既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。	2前	32	2	○		○	○				
	○	特別講義Ⅳ	既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。	2後	32	2	○		○	○				
○		生き方講座Ⅴ	仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。	3前	32	1	○		○	○				
○		生き方講座Ⅵ	仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。	3後	32	1	○		○	○				
○		R u b yプログラミング基礎	オブジェクト指向言語であるRubyを用いたデータベース活用アプリやWEBアプリの作成について学ぶ	3前	128	6	△		○	○	○			
○		R u b yプログラミング応用	Ruby ON Railsを用いたWebアプリケーションの開発について学ぶ。	3後	128	6	△		○	○	○	○		
○		モバイルプログラミングⅠ	App Inventorを利用したAndroidタブレットで動作するアプリケーションの作成方法を学ぶ。	3前	64	3	△		○	○	○			
○		モバイルプログラミングⅡ	Java言語使い、Androidタブレットを活用したマインドストームNEXTの制御プログラムを学習する。	3後	64	3	△		○	○	○			
○		組み込みシステム	ArduinoやKINECTといった機材を活用し、各種機器の制御の仕組みやプログラミングを学習する。	3前	96	4	△		○	○	○			

○	データベース構築	データベース管理システムのインストールから、多くのユーザを前提とした運用・管理までの操作方法を、実習を通して学ぶ。	3前	64	3	△	○	○	○						
○	ネットワーク構築Ⅰ	小規模ネットワークを管理できる技術の習得。OSI参照モデル、TCP/IPプロトコル、LANの基本、レイヤ2スイッチ、RPI、ネットワークセキュリティを学ぶ。	3前	64	3	○	△	○	○						
○	ネットワーク構築Ⅱ	小規模ネットワークを管理できる技術の習得。WAN、PPP、無線LANを学ぶとともに、ネットワーク構築実習を行う	3後	64	3	△	○	○	○						
○	仮想化技術	サーバの仮想化やストレージの仮想化など昨今の仮想化の仕組みと機能を学習する	3前	32	2	○		○	○						
○	システムマネジメント	システム開発におけるプロジェクトマネジメントについての知識の取得と、プロジェクトマネジメントで実施すべき事柄を習得する。	3後	32	2	○		○	○						
○	システム開発実践	グループを組んで、オリジナルなシステムの設計・開発を行う	3後	128	4			○	○	○	○				
○	情報処理演習Ⅴ	情報処理技術者試験に向けた対策演習を行う。	3前	32	2	○		○	○						
○	情報処理演習Ⅵ	情報処理技術者試験に向けた対策演習を行う。	3後	32	2	○		○	○						
○	特別講義Ⅴ	既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。	3前	32	2	○		○	○						
○	特別講義Ⅵ	既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。	3後	32	2	○		○	○						
合計			63科目		3,328単位時間(164単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。